

令和7年度 教育事業 法人ボランティア自主企画 「秋のやってみよう大作戦！」

1 事業概要

大学生を中心とした法人ボランティアが、小学3年生～6年生を対象にした事業を企画・運営した。この事業は「〇〇の秋」をテーマとした多様な活動プログラムを通して、子供たちが季節の魅力を感じながら興味・関心の幅を広げたり、異学年の仲間と活動することで、互いの価値を認め合い、多様な他者と協力・対話することの大切さや面白さを知り、思いやりを育んだりすることを目的とした。天候にも恵まれ、参加者は秋の魅力を全力で感じ、楽しく活動していた。また、法人ボランティアは事業の企画・運営から、子供たちへの支援や言葉掛け等をどのようにすれば良いのかを真剣に考える良い機会となった。



2 事業の目的（ねらい）

「〇〇の秋」をテーマとした多様な活動プログラムを通して、子供たちが季節の魅力を感じながら興味・関心の幅を広げ、仲間と協働する力を育む。また、自然体験を含む課題解決学習を通して、様々な状況に適応し、挑戦する中で、やり抜く力も育む。さらに、活動プログラムであるアイスブレイクやひみつ基地作りを通して、異学年との関わり方を学び、コミュニケーション力や創造力、集中力などを身に付けさせると共に、仲間との達成感を感じさせる。また、法人ボランティアが自主的に企画・運営を行うことで、ボランティア活動に取り組む意欲や実践力を高めたり、法人ボランティア同士の交流を深めたりする。

3 企画のポイント

法人ボランティア内から中心運営メンバーを募集し、そのメンバーがそれぞれのプログラムを担当した。目的を達成するための各プログラムを担当者が中心となって考えて提案し、その他のメンバーで意見交換をすることで、よりよいプログラムを参加者に提供することができた。

4 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

5 期 日 令和7年11月22日（土）～11月23日（日） 1泊2日

6 場 所 国立大洲青少年交流の家

7 対 象 小学3年生～6年生の児童、法人ボランティア

8 参加人数 参加者 20名
法人ボランティア7名（高校生1名 大学生6名）

9 参 加 費 3,000円

10 日 程 【11月22日（土）】

9:00 受付
9:15 開会式
9:30 アイスブレイク
10:30 ひみつ基地作り①
12:00 昼食（森のレストラン）
13:00 ひみつ基地作り②
17:00 タベのつどい
17:30 夕食（森のレストラン）
18:00 交流会（ミニゲーム）
19:00 星空観察
20:00 入浴
21:00 就寝

【11月23日（日）】

6:30 起床
7:10 退所点検
7:25 朝のつどい
7:40 朝食（カートンドッグ）
8:40 ひみつ基地作り③
10:00 ひみつ基地コンテスト
10:30 片付け
11:30 閉会式
11:45 解散

11 活動内容

【1日目 11月22日（土）】

○アイスブレイク

初めてのアイスブレイクに対して緊張している参加者もいたが、ボランティアが寄り添いながら関わることで次第にリラックスした雰囲気での活動することができていた。活動後は、参加者同士の会話も生まれ、よいスタートとなった。



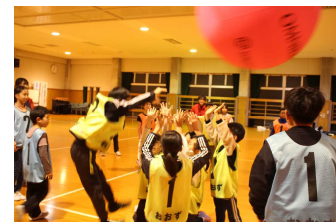
○ひみつ基地づくり

基地作りをテーマにした絵本をボランティアが読み聞かせたことで、参加者は物語に引き込まれ、活動への意欲が高まった。また、各班で基地作りのイメージ図を共有し、意見を出し合って具体的な計画を立て、その後キャンプサイトへ道具を運ぶ準備を行った。参加者は互いに声を掛け合い、協力しながら道具を運んでいる様子が見られ、準備段階でも楽しく活動に取り組んでいた。



○交流会（ミニゲーム）

各班に分かれて、キンボールとボランティアが考えたゲームを行った。参加者は体を動かしながら楽しんで交流し、チームワークが自然に育まれ、ゲームや遊びを通じて、参加者同士の距離が縮まった。



○星空観察

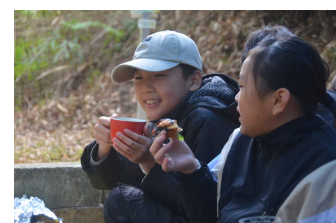
天候に恵まれ、参加者は地面にブルーシートを敷き、寝転がるように夜空を観察しました。星座早見盤を使用し、参加者同士で教え合い、実際の夜空を見ることで、天体への興味が深まり、夜空の美しさを実感していました。



【2日目 11月23日（日）】

○カートンドッグ

参加者は、初めてのカートンドッグ作りに挑戦しながら、協力して調理する楽しさを体験しました。参加者は、焼きたてのカートンドッグと温かいコーンスープを味わい、満足感を得ることができました。また、自分たちの作ったひみつ基地で食べるとより一層おいしく感じられたようで、仲間同士の会話も生まれ、楽しい交流の時間となりました。



○ひみつ基地コンテスト

各班が作ったひみつ基地の魅力についてみんなと共有を行った。どの班もユーモアにあふれる作品を作り上げることができ、参観に来ていただいた保護者の方も大絶賛であった。解体作業までを活動の一環として行い、名残惜しそうにしている参加者も中にはいた。



12 参加者の声

○事業後アンケート結果（参加者）

*満足 100% *やや満足 0% *やや不満 0% *不満 0%

【参加者の声】

- ・新しい友達ができ、したことのない体験ができたのですごくよかった。（小5・女子）
- ・カシオペア座を知らなかったので教えてくれてよかった。（小3・男子）
- ・子供たちと話をしているときに「楽しかった」という言葉を聞けて良かった。（法人ボランティア）
- ・その子なりの関わり方を考えることや積極的に話し掛けるということが大切だと感じた。

（法人ボランティア）

13 事業の成果

法人ボランティアは、企画・運営を通じて自分たちの力でイベントを成功させる達成感を味わった。参集型での打合せが難しい時期は、オンラインミーティングを行うなど、時間を調整しながら行い、当日は参加者と楽しく活動する姿がたくさん見られた。事業最終日には参加者の「楽しかった」という声を聞くことができ、ボランティア自身の大きな成長を実感していた。また、他の法人ボランティアとの交流も生まれ、よりよい人間関係へとつながるきっかけにもなった。

14 事業の課題

各プログラムの細かな運営について時間の確保はできていたものの、深掘りをしながら協議を進めることに苦戦していたため、当日ドタバタしたこともあったようである。しかし、当日は互いにフォローし合いながら進められたことで参加者も満足していて良かった。次年度は、さらに事前の打ち合わせがスムーズに行えるように、職員もサポートをしながら計画を進めていきたい。

（担当：企画指導専門職 都合 美帆）